

# 第10回死刑映画週間

# 「差別と分断」のなかの死刑制度

# 上映作品

## A 『粛清裁判』



2月13日(土) 11:00  
16日(火) 19:00  
18日(木) 16:30

監督=セルゲイ・ロズニツァ

2018年/オランダ/ロシア/DCP/123分  
【物語】ロシア革命から13年後の1930年、モスクワ。8名の大学教授や技術者が西側諸国と結託したクーデターを企てた容疑で裁判にかけられる。産業党事件の名で知られる、独裁体制を確立しつつあつたスターリンによる見せしめ裁判である。労働者主体の革命を企図するスターリンは、帝政時代から特権的な位置に居続ける技師を餌食にして、国内の引き締めを行ったのだ。公開裁判だったので、記録映像が残っていた。そのアーカイブフィルムは2017年に発見され、ロズニツァがこれを再構成した。法廷は被告らへの極刑を待ち望む傍聴人で毎回あふれている。全国各地では、「反革命者への死刑」を求める巨万のデモ(主要都市で数百万人が参加したと言われる)が行われる。民衆が独裁権力の嘘を見抜けないまま、これを後押しするとき、そこにどんな社会が現れるかを指し示す。

## B 『コリーニ事件』



2月13日(土) 13:30  
15日(月) 16:30  
17日(水) 13:30  
19日(金) 11:00

監督=マルコ・コロイツパイントナー

2019年/ドイツ/DCP/123分  
原作=フェルディナント・フォン・シーラッハ「コリーニ事件」(創元推理文庫刊) 出演=エリヤス・ムバラク アレクサンドラ・マリヤ・アラ ハイナー・ラウターバッハ フランコ・ネロ  
【物語】経済界の大ものが惨殺された。30年以上ドイツでまじめに働いてきたイタリア人ファブリコ・コリーニが、なぜ殺人事件を犯したのか。新米の弁護士ライネンは、この事件の国連弁護人に任命される。被害者はライネンの少年時代からの恩人だった。被告人コリーニは事件の動機については口を閉ざしたまま何も語ろうとしない。ライネンは弁護に窮するが、事件を調べていくなかで、事件はドイツ史上最大の司法スキャンダルへと発展していく。やがてドイツ国民が最も知りたくなかった真実に向き合うことになる。

## C 『8番目の男』



2月13日(土) 16:30  
15日(月) 19:00  
16日(火) 13:30  
18日(木) 11:00

監督=ホン・スンワン

2019年/韓国/BD/114分  
出演=ムン・ソリ パク・ヒョジョン ペク・スジャン キム・ミギョン ユン・ギョホン ソ・ジョンヨン チョ・ハンチョル キム・ホンパ チョ・スン  
【物語】2008年韓国に国民参与裁判が導入された。その初めての実際の裁判に基づいて描かれた作品。年齢も職業もまちまちのふつうの人々8人が陪審員として選ばれる。事件は証拠・証言・自白もすべてそろった明白な殺人事件で、量刑を決めるだけのはずだった。ところが被告人がいきなり容疑を否認したため、陪審員たちは急ぎよ有罪か無罪かの決断を迫られることとなる。裁判長が迅速に裁判を進めようとするが、8陪審員ナムの突発的な行動などにより、裁判は思わぬ方向に進んでいくことになる。

## D 『処刑の丘』



2月13日(土) 19:00  
15日(月) 14:00  
17日(水) 11:00  
19日(金) 16:00

監督=ラリーサ・シェビチコ

1976年/ソ連/35ミリフィルム/110分  
出演=ボリス・プロトニコフ ウラジミール・ゴスチューヒン アナトリー・ソロニン  
【物語】1942年の冬、ナチスドイツに占領されたベラルーシ。バルザンの二人の兵士リュバクとソトニコフは食料の調達を命じられる。しかしドイツ軍に発見され捕獲される。ドイツ軍への協力者ポルトノフは元教師だが、情け容赦ない尋問をする。情報を知らせれば命を助けてやる、と交換条件が出される。捕虜となったリュバクとソトニコフは違った行動をすることとなる。女性監督ラリーサ・シェビチコが、戦場を舞台に対照的な二人の兵士の内面を鋭く描いた本作品は、1977年のベルリン国際映画祭金熊賞を受賞。

## E 『菊とギロチン』



2月14日(日) 10:30  
17日(水) 16:00  
19日(金) 18:30

©2018『菊とギロチン』合同製作会

監督=瀬々敬久

2018年/日本/DCP/189分  
脚本=瀬々敬久×相澤虎之助 撮影=鶴島淳裕 音楽=安川午朗 脚本=東出昌大 冨野一 木尾麻生 韓英恵 井浦新 川瀬陽太 大森立嗣  
【物語】1920年代前半、関東大震災直後の日本。日清戦争以降、戦争に次ぐ戦争を経験してきた日本は急速に不寛容な社会へ向かっていった。アナキストグループ「ギロチン社」の青年たちは、官憲にアナキスト思想家・大杉栄が殺害されたことに怒り、復讐を画策していた。そこへ、当時全国各地を巡回行っていた女相探の一行がやってきた。社会的に孤立したアナキスト青年たち、女だという理由で幾重もの困難を抱えて女相探に行き着いた女たち一次第に心を通わせてゆく両者の間には、さまざまな物語が繰り広げられてゆく。史実にフィクションを交えて展開される、アナキスト青春群像劇。

## F 『プリズン・サークル』



2月14日(日) 14:00  
15日(月) 11:00  
16日(火) 16:00  
18日(木) 13:30

©2019 Kaori Sakagami

監督・制作・編集=坂上香

2019年/日本/DCP/136分  
撮影=南幸男 録音=森英司 アニメーション監督=若見ありき 音楽=松本祐一 鈴木治行  
【物語】日本の刑務所内に入り撮影を行なったドキュメンタリー作品。日本初となる長期(2年間)にわたる撮影は、取材許可が下りるまでに6年間を要した。撮影したのは「島根あさひ社会復帰促進センター」で、官民協働の新しい刑務所。警備や職業訓練などを民間が担い、ドアの施錠や食事の搬送は自動化されたICタグとCCTVカメラが受刑者を監視する。しかし、その真の新しいは受刑者同士の対話をベースに犯罪の原因を探り、更生を促すプログラムを日本で唯一導入している点にある。カメラは、窃盗や詐欺、強盗傷人、傷害致死などで服役する若者たちが新たな生き方を模索する姿を追いかけていく。

## G 『ウォーデン消えた死刑囚』



2月14日(日) 17:15  
17日(水) 19:40  
19日(金) 13:30

©Iranian Independents

監督・脚本=ニマ・ジャウイディ

2019年/イラン/BD/90分  
出演=ナヴィッド・モハメドザデー バリナズ・イザドヤール  
【物語】1966年イスラム革命前のイラン南部にある刑務所が、新空港建設のために立ち退くこととなる。所長のヤード少佐は、囚人を新しい刑務所に移送する任務を負うことになる。無事任務を果たせば大きな出世を約束されていて、それは少佐にとっては難しいことではないと思われた。ところが、一人の死刑囚が行方不明との報告が届く。所外への脱走は決してありえないと考えた少佐は、所内の徹底した捜索を決意する。事情を聴くために死刑囚を担当していたソーシャル・ワーカーを呼び寄せる。美しく聡明な彼女に少佐は以前から惹かれていたのだが…。1980年生れの女性監督ニマ・ジャウイディの長編2作品。

## H 『アメリカン・プリズナー』



2月14日(日) 19:15  
16日(火) 11:00  
18日(木) 19:00

©2016 Status Media & Entertainment. All Rights Reserved.

監督=ディモシー・ウッドワード・Jr.

2017年/米/B D/107分  
出演=デニス・リチャーズ カイウイ・ライマン ブルース・ダーン  
【物語】犯罪心理学者アマンドは、選挙が近いテキサス州知事の依頼で、数時間後に刑に処せられる死刑囚ジャクソンと直接会うこととなる。ジャクソンの死刑執行をするべきかどうかを判断するためだった。刑務所でアマンドはジャクソンから彼の過去を聞き取っていく。彼は幼いころ、親戚の男から性的虐待を受けていた。17歳の時、その男に暴力を振るって逃げ出す。そして、出会ったマーティンと泥棒稼業に励むようになっていく。警官の夫が殉職した過去を持つアマンドは死刑に肯定的であったが、ジャクソンのすさまじい生半生を聞く中で微妙に変化していくのだが…。

### ◆各回入れ替え制

\*一部の作品の画・音に不備がある場合もありますので、ご了承ください。  
\*やむを得ない事情により作品及び上映時間が変更される場合がございます。

13日(土)	14日(日)	15日(月)	16日(火)	17日(水)	18日(木)	19日(金)
A 11:00	E 10:30	F 11:00	H 11:00	D 11:00	C 11:00	B 11:00
B 13:30	F 14:00	D 14:00	C 13:30	B 13:30	F 13:30	G 13:30
上映終了後トーク						
木村草太	坂上香	C 19:00	A 19:00	G 19:40	H 19:00	E 18:30
C 16:30	G 17:15	上映終了後トーク				
D 19:00	H 19:15	李泳采	池田嘉郎	村山木乃実	柳下毅一郎	太田昌国

ゲスト紹介: 木村草太=憲法学者/坂上香=映画監督/李泳采=日韓・日朝関係史学者/池田嘉郎=近現代口  
シア史学者/村山木乃実=現代イラン文学者/柳下毅一郎=映画評論家/太田昌国=評論家

協力: サニー・フィルム/アテネ・フランス文化センター/株式会社ソニー・ハーツ/  
株式会社クロックワークス/有限会社スタンス・カンパニー/株式会社プレゼディオ/  
『菊とギロチン』合同製作会/東風

### 入場料金

一般1,500円/大学・専門学校1,300円/シニア1,100円/  
会員1,100円/高校生800円  
前売券 5回券4,500円/3回券2,800円/1回券1,000円  
ただし『ウォーデン消えた死刑囚』は当日券一般1,800円  
大学生・専門学校生1,500円(前売券はご利用いただけず)  
ユーロスペース劇場HPでは3日前から各回開始1時間前まで座席指定券が購入できます(各  
種クレジットカードのみ、詳しくはユーロスペース劇場HPを確認ください)。前売券は3日  
前より劇場窓口にて座席指定券とお引き換えできます。オンラインでもご利用はできません。

ユーロスペース 渋谷区円山町1-5 (渋谷・文化村前交差点左折) TEL. 03-3461-0211  
<http://www.eurospace.co.jp/>

